滿洲日報

○報價目
每月收取八角代賣所及送達人并無分毫加增

○告白料
一行五號二十一字起碼登一日者每行二角每登十日行一角五分（登月者每行每日一角登長年者價當面議從減）每張四百文

Rates for Advertisement 20 cts. per line.
Payable in Advance. Postage Included.
The Manchuria Daily Report Office.
Newchwang.
Telephone No. 29.

料 一ヶ月以內 [illegible]
一長期連掲減價面議
發行所 淸國營口中盛街
滿洲日報社（電話二九番）

集市元豆六吊百至六三吊二百
紅糧價錢五吊四百文至五吊
集子共上車三十餘輛
邊苓共來七十餘輛
元寶吊九百至六吊八百

傘	仝	同 [illegible]
仝	仝 九舞入	同五圓 [illegible]
赤味噌	仝 大樽	同四圓
札幌麥酒	四打入	同九圓三十錢
蜂印香竄葡萄酒	仝	同九圓八十錢 同二十二圓五十錢
仝 滿燒	仝	同二十三圓
筍	二打半	同八圓五十錢
梨	四打	同十一圓
桃	仝	同九圓五十錢
人形ミルク	仝	同十二圓五十錢
澤鶴	一仝 切込	仝
サツポロビール	仝	仝 十四圓五十錢
正味四斗四升入		十七圓 九圓七十錢

（宅合名會社調査）

社告

東北凶作地窮民救恤義捐金募集

東北三縣の凶作は國家近來の大慘事たり之を天保年間の大饑饉に比するに優るも讓らず各官廳及ひ地方有志は夙夜救濟の道を講ずと雖も窮狀日に益〻甚しく翅に地方自治機關の之が爲めに停止し國民教育の之が爲めに沮滯せるのみならず幾十萬の窮民坐して死を竢つ能はず山に木皮を拾ひ野に草根を掘り僅に露命を繫ぐに至る而も今や時冬天に會し饑寒交々至りて復た食と衣とを得るの道無く父母妻子東西に流離して乞丐と變じ餓莩路に横はるの慘劇將に臻らんとす是に於てか我內地に於ては東北三縣の舊藩主貴衆兩院議員等胥謀り東北三縣救恤會なるものを起し以て是等窮民振恤の方法を講じ在京各新聞通信社亦其擧を贊して均しく義捐金募集に着手せり我社固より涓埃の力敢て當るに足らずと雖も其慘狀を聞くや既に久しく同情の念靄々巳む能はず遙に聲援を我同業者に致し以て幾多窮民が焦眉の急を救はんことを期す江湖の君子庶くは本社の微意を諒とし應分の義資を投せられんことを其規定左の如し

一、義捐金額は一人拾錢以上とす
一、受付期限は二月二十八日迄とす
一、義捐金は直に本社に送附せられたし
一、本社が受付たる義捐金は每日正金銀行に保管預入を爲すべし
一、期限後は之を一纒めとし東北三縣救恤會に送附し其配分方を托すべし
一、義捐者人名は本紙廣告欄に掲載し受領證に代ふ

明治三十九年二月七日
滿洲日報社

三井洋行

倉庫部

啓者本行開創在中外通商各埠己有年歷所售棉紗棉布火柴煤炭糖海參等各貨均著物美價廉名馳遠近如蒙各商光顧請駕臨是荷着

●精製白砂糖新入物あり

今回倉庫所在地（青堆子精搗場上隣り河岸）の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は仝所へ御照會被下度願上候（電話百二十八番）

宅合名會社

本號前在營口東營元神廟街自進日本酒澤鶴印幷一切雜貨其名擧已傳播於滿洲仝地又擬在西營子老爺閣街同盛德院內分設支店一所發賣綿絲粗布火柴絲布絨衣帶標布手巾花巾東洋綢子洋鐘表貨物俱全而價值尤格外從廉且貴客賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請屝臨爲幸

總司理人　田中賴之助謹白

東盛和

本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行並滙兌銀錢兼代客經理買賣粗船裝運事宜營口廣東兩處自建碼頭能泊輪船二艘棧房地方寛大凡泊輪船裝卸貨物極爲利便圍貯油餅豆米麥更爲合宜兼置有輪船一艘名城多利能載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水脚棧租格外從廉　貴客賜顧請到小號面議是荷
總司理人　葉亮卿謹白

東永茂

機器油房在營口創辦油搾生意多年以本營業非祇做油房事及經理買賣雜貨布疋等物幷代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚週運知之
正理事潘玉田　副理事金德魁
設在營口西北街路南

西義順

本號開設營口西街老爺閣前路南警乙第五號專管裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寛大凡中外　士商賜顧者請認明招牌決不致悞
本主人敬啓

仁裕號

保裝運各幇火輪船生意兼賣各幇洋什貨糧石等此佈
營口西大廟街路北警乙第十三號

恒有長

本號開設在西大廟街路南第十一號廣福雜貨一應俱全價値格外從廉克己幷另設銀爐包營錯鑄以應急需久爲　中外士商所推許凡賜顧者請認明招牌爲荷

[illegible]花盛

油坊買賣元荳荳油荳餅雜色粮石以及代客購辦雜貨布疋一槪發行裝運沙膏熇船交易南北客商歷有年矣爲此謹白
開設營口西街老爺閣前路北警乙第四十九號

代代木烟公司

本行專售日本官造紙烟星象牌（斯遞）櫻花牌（攪和）百合花牌（利利）均巳馳名內外玆特選上等烟料加工精製雙仙鶴牌（隆沽來福）清香撲鼻佳美適口而價値極廉諸君欲購可向敝行或請至本行公司代理店西營口大德元採買庶不致誤謹此廣告

特別廣告

▲資本金貳千四百萬圓
▲積立金一千零拾四萬圓
本支店出張所
橫濱　神戶　東京　長崎　大阪　倫敦　里昂　紐育　桑港　布哇　孟買　香港　上海　天津　北京　大連　旅順　奉天　芝罘　鐵嶺
電話十番　支配人室
　百八番　事務室
橫濱正金銀行牛莊支店

淸酒東自慢、白鹿
朝日ビール
孔雀印平野水、箱根水
上等石炭及撫順炭、
以上極廉價を以て發賣致候間御用仰付被下度候也
松茂洋行商業部
河岸通（電話五十二番）

滿洲日報各地賣捌所
滿洲日報廣告取次所
大連市穩岐町三百三十八號　日華運輸公司
大連市磐城町四十九番地　岡野新聞舖
奉天大南門內景祐宮胡同　全泰號
遼陽　遼陽倶樂部　谷口今朝太郎

森病院

一診察　自午前八時至正午十二時　自午後三時至午後五時
一往診　午後三時より
△患者の入院治療を諾す
△貧困患者の施療は正午十二時より一時迄但婦の入院を諾す（取扱主任産婆大塩しげ子）
院主　森　[illegible]
醫長　鈴木昌平
營口永世街（電話一五五番）

大日本政府特定
官製口付紙捲煙草
滿州一手輸入發賣

江副洋行
營口永世街

和泉洋行

本店開設在營口重盛街、發賣毛布、手巾、小布衫、襪子、錢袋、帽子、洋蠟、小刀及其餘各種雜貨一概俱全價値格外從廉克己、凡　中外仕商賜顧者、請速臨爲幸、
大阪府堺市熊野町　藤原謹啓

田中牛莊分莊

啓者本舖開設於東營口綏定門外經大阪丸三組精造東緊身洋式襪子羊肚手巾各樣新近進口來的貨寄於本舖代售格外從廉　賜顧者請光臨本舖面閲是幸
田中牛莊分莊謹啓

材木販賣　荒物

秋田洋行
營口永世街第一八四號平野町
本店　下關　秋田寅之輔商店

●辭東申榮行
小林門平

雜貨卸商

在元神廟營口街
關東公司雜貨部

米國製
白麵發賣
大連市羽前町千八番
英組大連支店

飯塚工程局材料部

營口元神廟前（電話百三十五番）
韓局土木建築材料品の各產地と特約を結び廉價を以て多少に不拘賣却仕候間御引立の程奉希上候
一北海道產松大角材外種々
一石灰、石材、敷石、碎石、煉瓦等
一日本石炭數種

東京電報

●滿洲博覽會の開設 豫て東京大阪京都名古屋神戸等各實業團の計畫に係る滿洲博覽會は愈〻來る五月一日より向ふ三ケ月間奉天に於て開設する事に決し目下前記の各實業團及び其他の團体にても各自其準備に着手中なり

●驅逐艦白露の進水式 豫て長崎にて建造中の驅逐艦白露は十二日無事其進水式を終へたり

（以上二月十四日發電）

倫敦電報

●モロツコ會議の行惱 モロツコ會議は行惱みの姿となれり、佛國政府は更に其立場を言明してモロツコ國の警察權を獲得するは全國の權利なりと主張し獨國の所謂讓與なるものを一笑に附せり、且つ宣言して曰く佛國は今日の立場より一歩も動くこと能はずと

●ナタルの靜穩 ナタルに於ける土人の襲撃地は靜謐に歸し遠征隊は何等の抵抗をも受けずして同地に着せり

（以上二月十二日發電）

●牧野氏の墺都發 墺國駐剳日本全權公使牧野伸顯氏はビエンナ市を出發して歸朝の途に就けり各國の大使及び公使は慇懃に同氏を送れり

（以上二月十二日發電）

●モロツコ會議の其後 モロツコ會議の事態甚だ恐るべきものあるを以て一般の注意は今や同問題に集中せり佛國は不安の慮甚だしからざる都市及び開港場（多分フエツをも含むならん）に於てモロツコ人より編制せる官吏を監督し且つ佛國人を以て之れが上官となすべきことを主張す、獨國は警察權を歐洲第二流の諸國に分與せんと欲するもの丶如し然れども第二流の諸國は斯る責任を引受くることを欲せず

●米國議會追加豫算否認 米國議會の豫算委員は陸軍卿タフト氏の提出せる追加豫算を否認せりタフト氏の說明する所に依れば米國政府は在淸國米國人保護の必要を見るにあらざれば軍隊增遣の意思なしと云ふ

（以上二月十三日發電）

雜報

●露淸會議と露機關紙 露淸間の滿洲問題に關し北京に於ける露國機關新聞の唱ふる所に據れば二月三日を以て兩全權間に覺書を交換し會議は同く五月より正式に開始さる丶筈にて露國は到底本年中に滿洲の軍隊を撤退し能はさるに就き右撤退問題は議論の焦點となるべく又淸國にして鐵道問題に對し頑强に主張する所あらば露國は黑龍江以南地域の租借を要求すへく而して露國は北京松花江間鐵道敷設に對しては經費上の援助を與ふるに躊躇せず若し是等目的にして達するを得ずんば西カシカルに達する鐵道敷設權を要求すへしと云ふ

●內債募集の準備 臨時事件費支辨に關する法律案は臨時軍事費の大部分を占むる三億六千萬圓を公債若くは一時借入金を以て支辨する趣旨に出てたるものにて政府は此內二億圓の公債を內國に募集せんとするにあるを以て政府は兩三日中に該法律を發表し同時に豫て着手中なる公債發行規程中の重要なる點即ち利率は年五分に內定せるも發行最低價格は何程になすへきか是等は井上伯の興津より歸京するを俟って協議に取極るへく又發行に先だち從來の例により京阪其他の重なる銀行家を東京に召集して協力に及ぶべく尙內務大臣より地方官に對し募集に盡力すへき旨を訓示することも殆んど戰時に於けると同樣の手段に出づへしといふ

●論功行賞調査 論功行賞に就きては本紙の屢〻記載する所なるが今又聞く所に依れば凱旋各師團の勳功調査は概ね完結し陸軍省に於ては一應調査の上勳功の階級を附し賞勳局に進達するには多分四五月頃なるべしとのとなるが論功行賞も多分五月には發表に立至らん筈なり又た行賞賜金等は多分最下級の兵士より實施せらるべきと既報の如しといふ

●戰役勵勞の恩典 曩に陸軍大臣は全國各師團に對し動員部隊及び特設部隊は業務復舊の上は勤務に支障なき限り六ケ月以內に於て將校以下下士卒に對し三週間の戰勞休暇を與ふる旨達する所ありしが目下動員部隊及び特設部隊共差繰り之が恩典に浴しつ丶ありと云ふ

●小銃の一部改良 戰役の經驗に依り我が各兵器に改良を加ふべきは勿論就中砲にあつて特に其必要を認むる由なるが聞く所に據れば步兵の小銃に於ては其效果殆ど遺憾なく發揮せられ居るも尙一小部分に改造をかふる點あるやにて目下兵器廠兵器監部技術審查部等に於て各意見を徵して研究中

●ノーエル大將の再遊 昨秋我邦に來遊したる前英國東洋艦隊司令長官ノーエル大將は來三月歸國する筈なるが同大將より我船越中佐への書信に依れば大將は夫人のみ歐洲航路を經て歸國せしめ自分は令孃を伴ひ再び我邦に來遊し米國を經て歸國する筈なりと

●俘虜搭載船爆沈 浦塩歸航アスコツト號の報に依れば露國俘虜搭載船セルビヤ號は去月廿八日浦塩を發しオデツサに向ふ途中浦塩港外に於て曩に日本艦隊の沈置したる水雷に觸れ船体爆沈し終り百餘名の死傷者を出したるを目擊せりといふ

●凶作地の地租延納 去る一日東北三縣に於ける地租總額三百二十餘万圓に對し凶作の爲め延納するもの夥しく去る三十日迄に仙臺稅務監督局に於て調査したる延納金高全地租の三分の二即ち二百万圓に達せりといふ

●河野氏等の公判 河野小川大竹櫻井四氏の公判は來る十五日開廷の筈なるが屆出辯護士は追々增加し已に百二十餘名に上りたりと

●印度人の日本人招聘 印度基督敎靑年會の招聘に依りカルカツタ、孟買マドラス其他主要の都市十餘箇處に於て日本の宗敎及び敎育に關する講演をなす爲め原田助元田作之進の二氏四日夕神戶發のプロイセン號にて出發せり

●軍人の名譽 在金澤第九師團にては此程敵國の捕虜と爲りし後備第三十五聯隊第四中隊步兵一等卒增田仙太郎の審問を行ひたる結果軍人の名譽を毀損せざるものと決定されたり

●鐵道旅客の安眠保護 官線鐵道各驛にては列車の停止中構內に於ける呼賣商人か深夜にも拘らず賣聲喧しくプラツトホームを呼廻はり旅客の安眠を妨ぐとの苦情あるにぞ此程より每夜十一時より翌曉四時までは旅客睡眠保の獲ため物品販賣を差止めたり

●世界一の長壽者死す 米國市俄古近信によれば稀有の長壽者たるフワンニー、エプスタイン夫人は去月初旬を以て百十二才を一期とし黃泉の客となれり同夫人は一千七百九十四年露國エプノ市に生れ奈破翁のモスコー侵入を目睹し常に其慘憺たる光景を物語るを得意とし居たりと

●北京短信 （二月十日發）

編輯各位北京の昨今は御正月の飮み喰ひ騷ぎのみにて格別珍聞快事も無之候例の淸露談判は吾人が明日張胆して待ちしに拘らす何んとなく氣拔けの模樣ありて恰も大蛇潟と越ヶ嶽の取組を看る心地致候互に難題を持ち出して先方の意氣込みを偵察しつ丶有之候へば其發展を看るは多少日數を要することゝ存し候偖て近頃の珍客として北京にテモつ丶あるは蒙古王公等に御座候內外蒙古王公は年一回若くは二年一回進京して覲見する例なるか本年も三四十名入京致居候我か內田公使は去る五日夜蘇線胡同なる棠蔭精舍に於て肅親王那親王喀喇沁王巴林貝子及伊犁の特爾扈特王等を招待して饗宴を張られ候酒間には東京還り拔きの日本藝妓等の周旋するあり純然たる日本料理の御馳走にて孰れも興に入りて主客十二分の歡を盡くされしやに承り申候巴林王は二十三歲の活潑なる壯年王爺なるが近々北京美人の稱ある桂公の姬君と結婚せらる丶由に御座候又伊犁の特爾扈特王は年來の希望たる日本留學の允許を得たれば解氷早々日本に渡り五六年間留學する由に御座候同王は露國の侵畧的行動を憤慨し十年後は充分の兵力を蓄へ彼に痛棒を喫せしむへしと氣焰を吐き居られ候蒙古王公等の發憤は尋常一樣に輕視すへからさる事かと存し申候頑愚なる淸廷を覺醒せしめんには蒙古王公を刺激するを一策と致すへく候蒙古王公を啓發せんと欲せば邦人の多數內外蒙古に進入するか又は王公等を日本に渡航せしむるを以て必要と信し候かく甲す拙者も近く外蒙古に進入するものに御座候匆々不一

●營口と大連との比較 記者昨日軍政署に與倉司令官を訪ふ會々、傍に郵船會社の大連主任佐藤氏あり大連と營口との比較に付て論述する所面白き個所無之に非ず即ち要を摘みて左に之を記すへし

營口と大連とは何れが繁榮すへきか十餘年後の將來は知らず數年の將來に於ては余は寧ろ營口を以て繁榮すへしと信す少くも數年の以內に於ては營口は決して大連に其の繁榮を剝奪せらる丶者に非す依然として今日の繁榮を持續すへきを確信す請ふ所見の一端を吐露して大方の高敎を俟たんとす

論者或は大連より大石橋迄の鐵道運賃は一哩一噸に付て僅々二錢にして大石橋以北に於て初て五錢となるに營口大石橋間の鐵道運賃は一哩一噸に付き五錢即ち大石橋以北と全然其率を同一にするを觀察し帝國政府は鐵道政略を以て漸次營口の繁榮を大連に剝奪し大連を以て滿洲の中心市場と爲す者也と速斷し頗る營口の將來を悲觀す政府の政略が論者の想像の如く果して營口の繁榮を大連に合併するに在るや否やは世界の推察に一任し彼是を之を論せすと雖も余は自然の趨勢に觀察し論者の悲觀は一塲の杞憂に淵源するを確信する者也

抑も營口の繁榮はジャンクと馬車の上に築かれ在り殊にジャンクは其の繁榮を保つ上に於て馬車に比し一層の勢力あるは世間に於て熟知する所の事實とす夫れ然り馬車の往來に於て將たジャンクの上下に於て現狀を以て將來と雖も依然持續せんか營口繁榮は今日と比較し敢て別に差異を觀さるは復た疑無き也

即ち營口が將來に於て衰微するの日ありとせば馬車の往復に於て、將たジャンクの上下に於て殊に遼河を上下するジャンクに於て一大變化を觀るの時なるが斯の如き夫れ果して數年の將來に到來す可きの事實なるか

試に遼河を上下する所のジャンクの數に付て調ふるに營口稅關の調查表には一万二千隻とあり近頃發行の總督府の記錄には七千隻とあり何れか確實の者なるか容易に判斷する能はすと雖も假に兩者の中間を取れは一万隻也今請ふ一万隻と假定して論述せん抑も此一万隻の船舶は其船形に於て其慣習に於て將た需給の關係に於て決して天津は勿論、芝罘にも將た香港にも移轉する者に非す即ち依然として永く營口を根據に遼河を南北に上下する也、果して然らは假に論者の推察の如く帝國政府の政策か鐵道政略を以て營口の繁榮を大連に合併するに在りと觀れは此の一万隻の船舶は當然鐵道に對抗競爭する者と豫想せさる可らす此時に當り鐵道は果して能く勝者の地位に占居し以て船舶を屈服するに足るか論者か鐵道政略を觀て營口を悲觀するは即ち此の競爭に於て當然、鐵道か勝利を獲得する者と觀察するか爲なるへし

鐵道經營の先鞭に聞くに一哩に對する鐵道の經費は普通十六圓乃至十九圓にして日本鐵道の如き恰も今日此の經費の割合を以て運轉を持續せりと云ふ今夫れ滿洲に於て鐵道を經營するとせんか內地に於ける普通の經費一哩に對して尙且つ十六圓乃至十九圓少くも其の一哩に對する經費は二十圓以上を要すへし即ち今ま一哩の經費二十圓と假定せは大連より長春に達する東淸鐵道の經費は優に八千圓以上を要する也而して此八千圓は實に東淸鐵道か日々の生活の必要費也、故に東淸鐵道に於て假令遼河の船舶と競爭を開始するに至るも其の競爭力は收入の當に此の以上に在るの時也若し夫れ此の以下に及ひ尙且つ競爭を續げんか自ら死に進むと復た還ふ無し夫れ既に死に向ふ者何を以てか能く最終の勝利者たるを得ん　（未完）

●鐵嶺近況 商品仕入に昨日を以て來營せし鐵嶺居住の某商人に就き鐵嶺の近狀を聞くに大畧左の如し

▲鐵嶺に居住し營業せる者は目下の所其の人員尙は一百名內外に過ぎさるも視察者を加へて計算すれば鐵嶺に衣食する邦人は今日に於て既に其の人員約一千名に達せり更に又た軍人軍屬を加算すれば凱旋部隊の五千人（凱旋の爲め每日鐵嶺に在る者）を第一とし守備隊鐵道提理部建築班等に於て其外に尙ほ甚た多數の邦人あり、凱旋開始の當時に比較すれば多少衰弱の觀あるも未た中々の盛觀也、

▲今日居住し營業せる一百余名の商人中には無論旅館業料理業併に其他類似の飮食店業等に從事せる者最も多し最近の調査に依れば是等の營業者實に七十余名に達せり即ち正しく其の七分は是等の營業者也

▲旅館は主に停車塲を相距る甚た近き西門外に多し而して有名なるは銀州館、敷嶋館、鐵嶺館の出館、日本館、常盤館富貴樓等なりとす以上の旅館中最後の富貴樓を除くの外は大抵皆な其の位置西門外に在り即ち以て西門外か如何に多數の旅館を吸收せるかを觀るに足るべし

▲飮食店併に小さき料理屋等は主に城內に散在し往來の軍人を以て第一の顧客とせるが何れも相應繁昌の模樣也唯た彼等に於て尙ほ不足を稱へつ丶あるは女人の禁制なるも少くも本月中には未だ其の禁を解かれさるへし此の禁愈々解かれんか三日を出でずして當分は非常の繁榮を觀る可し

▲雜貨店も相應に在り品物も兎に角一通りは揃ひ居る如し其の塲所は東門外最も多數を占め主なる店は藤飯洋行亞細亞洋行德順洋行、前田洋行、平松洋行其他以前の酒保に依り營まれつ丶ある二軒の雜貨店等也

●滿洲各地正金銀行員移動 旅順出張所主任小貫慶治氏は今般小田切萬壽之助氏の滿洲總支配人として當地に來任すると共に當地詰となり其後任は鐵嶺出張所主任奥田氏轉任し奥田氏の後任は既報の如く戒田秀澄氏赴任せらる丶筈也

●鐵嶺商品陳列塲開塲期 鐵嶺に於ては豫て商品陳列塲開設の計畫あり本月上旬には已に開塲の運びに至るへき筈なりしが都合により暫く延期來月一日より愈〻開塲すると決定せりといふ

●慈善市愈々開催 屢々報道する所ありたる愛國婦人會牛莊委員部諸姉が慈善市を くに就て夫れ／＼準備中なるが豫て注文の美術品其他嶄新なる諸種の品物も不日到着すべき筈にて愈々來る廿日を期しアツセンブリホームに於て開催する事に決せりと云ふ其精細は紙面の都合に依り次號の紙上に掲載すべし

●土地貸下料未納者の注意 昨年十一月牛家屯附近の土地を其筋より借用し自今每月制規の貸下料を納入すべき達しあるにも係らず本年一月分貸下料未納者ある由にて本紙告示にもある如く本月末迄に尙納付せざる者は其土地の貸下を停止せらる丶事あるべければ各自に於て違はさる樣注意すべしとなり

●藝妓仲居周易判斷　朴捻老

都樓　米八 本名 瀧川とく（三十才）　若蝶（同）同 安雄（十八才）

此頃の寒さ一層嚴しく躰にこたへるわい、オヽ道理で又雪か、今日のやうな雪には姐さん方もこないであらう、ドレ炬燵へでも這入らうか、御免下さい、ハテナ足音がするぞ此雪に誰れが來よつたろ、ヤレ／＼五月蠅い事ぢや、今日は休もうかマテよ寐て居ては口が干上る譯、エヽこれも米の飯にありつく爲と思へば、これ位の事は何んでも無い事、〻御免／＼ハイ／＼今明けてあげますぞへ「應々といへど叩くや雪の門」と誰れやらの句にあるが成程こ〻らの事を言ふたのぢやらう、オヤ／＼來たぞ／＼コリヤ又例の三毛猫共と見えるわい、しかも二人連ぢや、誰れぢや／＼其處を魔胡付いて御座らつしやるのは、ハイあの易を見て下さるお宅は丶丶丶うん此處ぢやが、シテお前さん達二人は何んと云はつしやる方ぢやな、ハイ都樓の米八とそれから若蝶と申すもので、ウン／＼成程姐樣かい矢張り周の字を見て貰いにかへ、サアズーンと通らつしやれ、ぢやが餘り這り過ぎると裏口の方へ抜るぢや、ハ丶丶丶、それはそうと好く御座らつしやつた、早速御兩人一緒に見て進ぜよう、ヘ丶アお前さん二人は姉妹じやナ、ところで眞の姉妹ではなからうがな姉の米八さんの生れは名高い伊豫であらうが併しお前さんは氣の毒ながら三十面さげても生みの父上母樣はどこに、どうして御座るやら一向御存知はなからう、何でも指折り數ふれば今から十九年以前の事だが十一の年迄は四方に流離顚沛して人生の酸苦を嘗めたが丁度其時現在のお父さん庄藏さんの義俠によつて養育せられたのぢやらうナ、夫れから若蝶ざんの生れは土佐の高知市帶屋町池澤佐一さんの孫で死んだ多魚さんの長女で御座らうな、本名は安雄さんで男の樣な名前だが夫れは其筈お前さんは士族の娘さんぢや、六ツの年可愛想にお隣りの國伊豫の庄藏さんに貰われて來たで御座らうがな、どうぢや愚老の天眼通には驚いたであらうがなハ丶丶丶（まだ／＼）

●又も退淸者 近來各開放地を通じて退淸處分を受くる者頓に增加せるは實に忌ま／＼しき事なり玆に原籍鹿兒島縣始良郡粟村木塲現時永世街中野町居住雜貨商山下宇兵衛は去月商業視察の名義の下に昌圖行旅券を得其後同地に滯在中春画及び裸體寫眞を同地軍隊に密賣せるを發見し昌圖憲兵長より軍隊行動上妨害者と認められ向ふ一ケ年間淸國在留を禁止せられたりと云ふ

汽車

▲上行車時刻表

車站名	午前點分	午後點分
新民屯至溝幫子	上 六、〇〇	上 九、五七
營口至山海關	上 八、一〇	下 六、〇〇

▲下行車時刻表

車站名	午前點分	午後點分
北京至山海關	上 八、〇〇	下 六、二〇

野戰鐵道普通輸送列車發着時刻表

大連奉天間下り列車

驛名	發着時刻	
遼陽	着 午後 三、五〇	發 四、五五
大石橋	着 一〇、三二	發 一一、三五

上り列車

驛名	發着時刻
旅順	發 午後 一二、〇三
大連	着 五、三三

天氣　營口地方　自昨日午後六時至本日午後六時

雜報

●昨年の清韓貿易（上）

（阪神兩港の貿易）

本邦に於ける清韓貿易は大阪神戸兩港を以て重なるものとし其他諸港に至りては殆ど數ふるに足らざるを以て今昨年中に於ける阪神兩港の對清韓貿易に就て記載する所あり聊か對清韓貿易の趨勢を知るの便に供せんとす

▲對清輸出貿易　對清輸出額は大阪港三千五百六萬二千六百五十二圓神戸港三千六百七萬五千八百四圓合計七千百十三萬八千四百五十六圓にして之を前年に比するに大阪に於ては千八百八十三萬五千九百四十三圓即ち十一割六分一厘神戸に於ては三百六十三萬七千七百三十六圓即ち一割强合計に於ては二千二百四十七萬三千六百七十九圓即ち四割六分二厘を增加したり是れ必覺銀貨騰貴の影響は清國に於ける需用力を興奮したると銅貨地金輸出の盛況に基因したるものなるべし而して就中重なる輸出品の金額を記すれば左の如し（單位圓）

	三十八年	三十七年
銅	九、一六六、四九五	四、七〇四、五〇四
連史紙	七八六、七三三	八四九、二一三
絹綿繻子	五八五、四二四	四五一、〇六九
棉織糸	二四、〇五四、三九九	二〇、四六五、六〇〇
諸綿布	三、七二四、六六五	二、九二五、八六六
玻璃製品	八七八、五九七	四七〇、二〇一
燐寸	五、六〇三、五五四	四、七七九、八七五
洋傘	九五六、〇一六	八三四、三三三
銅貨地金	二、五四六、三三六	五六四、七〇八
煙草	一、四八二、一六七	一、〇三八、二五八

即ち前年に比し銅は約四百四十六萬圓（九割五分）絹綿繻子は十三萬圓（二割九分七厘）綿織糸は三百五十八萬圓（二割七分五厘）綿布類は八十萬圓（二割七分三厘）玻璃製品は四十一萬圓（八割七分）燐寸は八十二萬圓（一割四分六厘）銅貨地金は百九十八萬圓（三十五割一分）煙草は四十四萬圓（四割二分八厘）を增加し只連史紙に於て些少の減少を示したるに過ぎず其中最も多きは棉織糸の二千四百萬圓にして是等は棉花の比較的低廉なるにより內國に於ける紡績業の隆盛を來たしたる結果に外ならず更に增加割合の最も多きは銅貨地金にしてコハ清國に於ける貨幣鑄造に歸因せる需用の增加に因り數量及び價格とも遂に前年に比し三倍五割と云へる大激增を見るに至れり其他燐寸、煙草、綿布類の增加は必竟清國民需用力發達の兆候として見るに足るべく戰時中に於ける成績としては無比の良成績なりと謂ふべし

▲對淸輸入貿易　輸入貿易は大阪港四百八十四萬七千六百四十八圓にして前年より增加すること二百三十一萬四千三百四十六圓即ち四割七分八厘なれども神戸港に至りて反對の現象を呈し昨年に於ける總額は二千五百十六萬七千二百八十七圓にして前年より減少する事八百八十四萬六千八百五十四圓即ち二割六分に當り右合計は三千一萬四千九百三十五圓にして前年に比し實に六百五十三萬二千五百八圓即ち約一割七分九厘を減少せりこれ主として清國棉花の比較的高價なるより其輸入額に於て前年に比し約半減を來したるに因る今其重なる輸入品類を擧ぐれば左の如し（單位圓）

	三十八年	三十七年
大豆	二、七八三、〇五四	二、五八一、五四〇
綿糸	九一八、四六二	四八二、三三六
繰綿	一三、三〇七、七五四	二五、一〇八、九一三
毛皮	一、一七〇、九六一	一、一五七、五七八
苧麻	七八三、一一〇	四八八、八四四
豆粕	三、五四〇、二一三	一、三四九、八二七
柞蠶糸	一、一四一、二九一	七四一、一三〇

即ち前年に比して增加したるものは大豆の二十萬千圓綿絲の四十三萬六千圓毛皮の一萬三千圓苧麻の廿九萬四千圓豆糟の二百十九萬千圓柞蠶糸の四十萬圓等にして其減少したるものは繰棉の千百九十萬圓なりとす

●滿洲博覽會彙報

滿洲に於ける我戰後經營の第一着手事業として滿洲に博覽會を開設し以て滿洲の商工業及び農業を振作すると共に我對滿洲貿易の發達に資せんとする計畫あることは既に屢々本紙の掲載を經る所なるが今同博覽會に關する雜聞を一括收錄すること左の如し

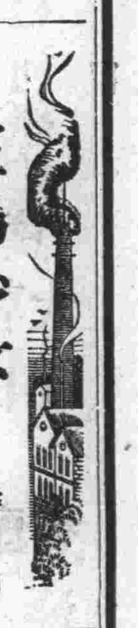
▲開設地と開期　博覽會開設地は東三省の首都たる奉天府にして實に三十萬の人口を有し且つ近時鐵道の連絡全く成り南北に上下するには勿論輕便鐵道ながらも朝鮮方面及び北京天津方面へも交通自由と爲りたるが爲め此地に相せられしものにて其開會期日は五月一日より始め約三ヶ月間開會の豫定なり即ち滿洲の解氷後より霖雨節の前なれば滿洲旅行者に取りては最も好適の時期にして觀察旁々觀覽は極めて便宜ならん

▲石塚長官の談と會場　此程歸朝中石塚民政長官が大阪に於て同地及び京都名古屋神戸四商業會議所員の招待會席上に於ける談話に依れば會場と內定せる建物は建坪六百坪周圍六百坪都合千二百坪にして出品者は館外に新なる建築物を爲すとも又は空地を如何に利用するとも自由なる筈にて同長官の意見に依れば閉會後も永久に商品陳列所的のものとして存續したき希望にして各商業會議所員も維持上左程の多額の經費を要せざるとなれば永久存續に熱心贊成せりといふ

▲經費及び支出方法　滿洲博覽會總經費は約八萬圓の豫算にして內四萬圓は關東州民政署より補助すへき由は曾て石塚長官の以上商業會議所員に明言せる所として記載せる所の如し而して殘額四萬圓は出品者の負擔なるも以上會議所に在りても幾分の補助を爲すべき筈なりと傳へらる

▲大坂の出品準備會　大阪にては去る五日土居商業會議所會頭市內の當業者を同會議所に招集し從來當局者との交渉顛末を報告し異議無く贊成を得茲に會長指名にて委員七名を擧げ同會議所編成の豫算及び規則を骨子として更に完全のものを編成せしめ五商業會議所の議に附することとせりといふ

▲博覽會と京都　京都商業會議所に於ても此程役員會を開き滿洲博覽會に關する件に就き種々協議を凝らせるが結局右準備として書記一名を派遣することゝ決し已に十日頃京都を出發して滿洲渡航の途に就かしめたりと



玉島少女

其四　壽山

夫の歸つて參りましたのは、其の岡山からの手紙を受取つた五日目の午前九時頃で、一昨々日から、もう歸りそうなものと待つて待つて待ち暮らして居りました。歸つて來た夫を見ますと、旅中鬚を剃らなかつた爲めか、何となく顏色が靑く、いくらか痩かせたやうな處も見ゆる。それに、何處となく態度がそわ〳〵して、何ふも困つた事をした、時計を旅店につい忘れて來たと申すのではありませんか。時計は銀側ですが、鎖は純金の誓、それにこれは友人の死んだ紀念でありますので、私もそれは困つた事を、ゝゝゝゝゝと思つた。夫はいつも思慮周密で、ついぞ物を遺れて來た例しは無いのですのにと……私は不思議に思ひながら、玄關に投り出されてある旅鞄をぐいと持上げると、其手提の革に着いて居る環が双方とも一時に脱れて、重い鞄は忽ち下に落ちて了つた。これ、こんなになつて……と夫に示しますと何ふもその手は脱れて爲方がなかつたとのこと。それで、時計はもうとても有りますまいかと聞きますと、いや、それア大丈夫だ。金神の立派な旅店の違ひ棚の上に置いたのだから、手紙を遣りさへすれば、乾度返して寄越す。返さんやうなことがあれば承知せんさと言つて、ふと氣を替へて、もう汽車が來るつて言つて非常に急がすものだから、遂に、忘れて了つたと、私に言ふともなく獨語ともなく。

玉島の話を其時夫からいろ〳〵聞きました。花はまだ早いので、人は餘り行つて居らなかつたが、それでも、善通寺山の絕頂から海を見下すと、丁度眼の下に水島と言つて、奇麗な、恰も大堀の中に造り嶋のやうで、其の近邊に幾つともなく、あちらこちらに小島がある。異向ふに、かすかに、大きな島が見ゆるは、これぞ、名高い四國島のこと、何ふも、あの位面白い處はない。港口は大川のやうで、數多船舶は出たり入たり。見渡せば、渡すほど、神經持も、いつのまにやら暢氣を養つたとのこと。それに、第一、美しい少女の多い處で、七八年前に行つた時にも、さう思つたが、今も矢張り變らぬ。それに、田舍と云へば、大抵言葉が野鄙で、美しい少女が多くつても左程心を惹かぬものであるが其地方の言葉が實に優美である。岡山言葉は少し鄙俳なところがあつて、餘り好ましいとは思はぬが、此地方のは何ふも岡山の少し高尙な處が加はつて、言ふに言はれぬ味がある。實に、忘れられぬ地方だと激賞しました。それに、玉島といふ町が甚しく興を惹いたとかで、其町が忘れられぬのかと聞きますと、其地方に、乙島、柏島、黑崎、砂美、など申して此の砂美は、近來夏頃に至り海水浴が設けられて地方紳士の夏休期遊樂です。また、金神と云ふ處は嘗と大谷村と言つて一小村落であつたが十數年以前、金神宮の、神宮、設せられてから、改めて、金光敎會なる者を設置せられて以來、毎年、春季、秋季の兩度に大祭日執行さるゝにつき。數多公衆參詣者は迚も〳〵申し盡されません、にぎわさだそうです。ほかに金光中學校あり製糸場などもありまして、この田舍に斯かる設備の出來居るには、皆さん、お驚きなさるとのこと。夫はこの風土の細徑が實に忘れられぬ印象を與へたそうで、其の山端に、そのやうに美しい語を操る美しい少女が住むかと思ふと、實に空想を惹かずに置かれぬと、夫は心から憧れて語りました。

私の空想も何ふしてもこれに誘はれずに居られませう。備中と申せば、產物の澤山ある、田舍で、そういふ風情ある町があつて、處女の養生所には日本第一でせう。

「一度私も伴れて行つて下さい。」と私は夫に言ひました。

廣告

東北凶作地窮民義捐者芳名

一金三圓	營口永世街	福島勘作
一仝一圓	同	福島こと
一仝貳拾圓	元神來街	播磨洋行
一仝五十錢	同	淺野作太郞
一仝五十錢	同	今井與三郞
一仝貳拾圓	金城ホテル	齋藤富次郞 仝すゞ子
一仝一圓	同內	鍋田淺太郞
一仝一圓	同內	島崎つる
一仝一圓	同內	原田常三郞
一仝一圓	同內	山本虎太郞
一仝一圓	同內	中村宇三郞
一仝一圓	同內	小山安五郞
一仝貳圓	同內	柴田ちよ
一仝貳圓	同內	荒山てい
一仝一圓	同內	小山そめ
一仝一圓	同內	中川いま
一仝一圓	同內	諏訪さと
一仝一圓	同內	佐藤たか
一仝一圓	同內	中澤せき
一仝一圓	同內	上木はな
一仝一圓	同內	西村くま
一仝一圓	同內	江川りう
一仝一圓	同內	玉越たま
一仝一圓	同內	加藤よし
一仝一圓	同內	伏見うた
一仝一圓	同內	大井かね
一仝一圓	同內	大野りよ
一仝一圓	同內	高橋さく
一仝一圓	同內	松本すゞ
一仝五十圓	營口稅關長	クラーク氏
一仝十圓	（追贈）米國人	無名氏

計百三十圓也
通計壹千一百〇一圓四十五錢

告示

一本年一月分土地貸下料未納者にして本月盡日迄に倘納付せさるものは其土地の貸下を停示す

明治三十九年二月十二日

營口兵站司令官　與倉喜平

歐米各國最新流行形
西海洋服店
永世街一四一（森病院三軒目）
（電話百二十七號）

右今般新荷着仕候間可成至急御申込願上候
消火器
英治洋行
營口大北街

讓り渡し
弊樓現在の家屋疊建具付の儘讓渡し度候に付御望みの御方は至急御來談被成下度候
二月四日
平野町　春帆樓

營口永世街
營口印字局

軍票騰貴致候に付發行正札價格より五歩引を以て御用達可申候
銘酒菊正宗新着!!
尙最上日本白米及マッチ新荷着仕候
雜貨商　加藤洋行（營口電話八十番）
本店　天津日租界
支店　營口　北京　大阪
出張所　遼陽

廣告

明治參拾八年十一月廿九日夜警の件に付き協議を要すへき事あるを以て日清兩國人よりの委員全部と清國營口公議會員二名とを第一派遣所內に招き協議せしめたり

最も夜警を設置したるは明治參拾八年十一月下旬にして日清兩國人の委員として夫れ〳〵軍政署より指名せられ其委員に於て總て其事務を擔任し來りたるも日清兩國委員間に於て是迄意思の疏通せざる爲めと側ら協議を要すべき點とにて本日特に全部召集會見協議せしめたるものなり當日日本人側より谷口今朝太郞、村山彌吉、永島貫二の三氏出席他の三名委員は旅行中又は用務の爲め欠席せられ清國人よりは全部出席せられたり協議したる件は左に

一是迄の夜警は人員不足にして未た充分に第一派遣所管內を巡視する不能依て一月一日より更に八名を增加せしめ（當時十二名）一層當派遣所管內の各衙を嚴密に巡視せしむると八人の增加と共に其費用も倍々增加する故是迄日本人側より其全部費用の三分の一を負擔することゝなりをりしも（約一ヶ月百五十圓の見込なりし）一月以降は日本人側より毎月百五十圓を支出し他は清國人より支出負擔すると

一但し二十八人の夜巡夫は一ヶ月一人十五圓づゝにして二十八人にて三百圓當地家賃油炭其他雜費等約五十圓其他柏子木角燈修理代等にて合計三百五十圓

一總て夜警に要する物品は公議會より支辨すると

一日本人側より支出する金額は其月廿五日迄に取纏め第一派遣所憲兵の手を經て公議會に交付すると

一夜巡夫の監督は軍政署に於て監督せらる

一夜巡夫に於て巡視中火災盜賊其他變事を害する事あるを發見し特に功勞あるものは日本人側より賞與すると

右の通り第一派遣所受持憲兵井元勇馬氏立會の上決議仕候條此段及報告候也

十一月十二日決算報告

一銀二百七十五圓五十錢也　徵收高
內譯
一銀七十五圓二十錢也　十一月分夜警巡夫費
一銀百五十圓也　十二月分夜警巡夫費
一銀四十六圓三十錢也　帳簿幷に廣告料及び事務員給料其外雜費

差引殘金十八圓也

右之通報告に及び候也

營口第一派遣所管內
夜警委員

Yano & Co.
矢野洋行
Telephone No. 137　電話一三七

諸雜貨、家道具類、呉服反物、蒲團類、婦人用小間物、下駄、足袋、食料品、其他種々

今回新荷着致候間直段も極安價を以て御用に可應候に付何卒多少に不拘御用命の程偏に奉願上候

謹言

石材、碎石
並に自家製造　廉價販賣
瓦、煉瓦

營口元神廟街四十號第二號

順吉洋行

滿洲大販賣所

營口出張店は結氷中引揚ゲ候ニ付御用向ノ御方ハ遼陽出張店ヘ御來店アリタシ

遼陽停車場前　池上出張店
奉天　池上出張店

風藥

商標登録

止咳祛痰散

哮喘氣急、多痰帶血、咳嗽痰稠、各種喉症、胃痛陶痛、甚至臥不安、飲食不進、或語聲吏手百藥罔效服用此散不論初起遠年立刻見效眞水火既濟之良方也

◎たんせき一切
◎肺病の特藥
◎ひきかせ

醫藥醫料器械
賣藥寫眞藥

營口永世街（東順泰東首）
大阪賣東瀛大藥房

澤亀は醇良にして風味高尚

進ム　札幌ビール　朝日ビール
政府專賣口付紙卷煙　朝日　大和
酢　醤油　瓶詰樽詰
菓子色々　罐詰
洋酒類取次販賣

醸造發賣元
大阪府堺市九間町　本店
北海道小樽湊町　小樽支店
臺灣臺北街書院　臺北支店
臺灣基隆街石牌　基隆支店
臺灣臺南街下南河　臺南支店
北海道函館區辨天町　函館出張店
清國遼陽城内西街　遼陽出張店
清國大連監部　大連出張店
清國牛莊港東營口　營口支店

宅合名會社

東營口郵便局東隣
島田洋服店
新民屯停車場前
同支店

會席料理
營口警務課前南に入る
三日月

奉天日本旅館
瀋陽館
家屋宏壯清潔
接待優遇懇切
開放全時ニ開業
奉天小西門外大街路北

SPECIAL LIGHT
(PILESNER BEER)

スペシャルライト賣出し

スペシャルライトはピルスナビールにして此種のビールは日本に於ては弊社始めて之を醸造せり
スペシャルライトは高價を拂ひて元料を特選せり
スペシャルライトは其味輕くして高尚なり

醸造元　大阪朝日麥酒株式會社
營口發賣　關東公司雜貨部

標子木板
發賣料木

營口青堆子
清水堂本局

一關内外盧漢鉄道貨物運輸　但シ營口新民屯間ノ鐵道輸送ヘ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候
一海關手續　事務取扱　但弊店事務所及郵船會社代理店内派出員ニテ
一鈔關手續　但西營口鈔關裏手東玉昌方ニテ事務取扱
一船舶荷物取扱
一其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業

右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候

營口西北街第二七二號
大清通運公司
營口支店

萬事勉强乘車乘船好位置
營口中央市場前
旅館　東京樓
店主　熊田兼次郎（電話百七十八番）

西洋料理仕出し御需應にす
即席和洋料理　東京樓支店（電話四十四番）

景品御料理御披露

私儀夫月中原料並に道具仕込みの爲め歸朝致し居ましたが此程種々の珍品を仕込みて立歸りましたを幸ひ平常の御引立に酬い度と思ひますので此際更に大勉强をしまして從來の御料理を吟味します外新に左記の價額にて釜飯湯豆腐の二品を加へ籤引景品を差上ます

新御料理
加藥飯　御壹人前　銀五拾錢
親子飯　仝　上
湯豆腐　一鍋壹　銀貳拾五錢

但釜飯は加藥親子何れでも御二人前以下は御調進出來ませぬ景品は御勘定（銀貳圓）に對し一枚の割にて景品券にて差上げ置き今回の總券數二千枚を出し盡しました時に有志の御方々の御立會ひを乞ひまして籤引致し景品券を引換へに差記の景品を進せます何卒陸續御入來之程を偏に希ひます

景品目錄
第壹等　銘酒澤亀　七樽
第貳等　仝　三樽
第參等　五匁附純金指環　壹個
第四等　二本　銀側懷中時計（代價二拾圓）壹個宛
第五等　三本　旅行用皮製カバン（仝拾五圓）壹個宛
第六等　四本　旅行用化粧道具（仝拾圓）壹個宛
第七等　五本　膝掛け（仝八圓）壹枚宛
第八等　六本　絹紬（仝六圓）壹反宛
第九等　七本　メリヤスシャツ（仝五圓）上下壹組宛
第十等　八本　卷烟草入（仝貳圓）壹個宛

明治三十九年二月十日より

元神廟街
翁亭
長谷川金次郎

軍隊用雜貨
日用品雜貨
呉服太物類
化粧品類　卸小賣
陶器類
食料品類

其外新荷着精々安價販賣

營口永世街七十號（第二市場東）
石原商店

官製口付莨、文房具
和洋酒類　白米
罐詰、菓子
藥品、雜貨　卸商
醤油瓶樽詰
防寒具、安價販賣

營口西北街
豊生洋行
（電話十三番）

時刻

山海關至天津　上五、〇〇　下五、五五
唐山至天津　上六、〇〇
塘沽至北京　上六、二〇　下一、二八
天津至北京　上八、〇〇　下六、四五
山海關至北京

天津至唐山
唐山至山海關
山海關至營口
新民屯至營口

石陽大…
天上　着　前　午後　着　前
…

大連旅順間下り列車
大連　發　午前　七、三〇
旅順　着　　　　一〇、四九

營口上り列車
營口發　午後　十〇、二五
大石橋着　前　一二、二〇

論說

論改定官制

天下何以治。治之以名實而已。創制之始。緣實定名。釐正之法。循名覈實。能循名覈實。而天下固已治矣。烏用紛紛改制爲哉。官制者。名實之大原也。改定官制者。循名覈實之微意也。然建官之初。斷未有無其職而徒設其名者。因仍既久。官失其職。不咎職之不擧。而咎官之虛設。于是裁官併官增官之議起焉。裁之併之增之。以爲覈實之事。而不知猶循名之事。蓋職事者實也。能擧其職則裁可也。不裁亦可也。併可也。不併亦可也。增可也。不增亦可也。不擧其職。而徒變其名。則裁之併之增之。不足以爲治。適足以爲亂。烏用此紛紛改制爲哉。宋初建官。類多虛寄。元豐改制。使長吏察月。御史察季。都省察歲。不可謂非名實相孚之善擧也。乃論者謂昔之流品甄別。今之流品混淆。昔之官品難于進。今之官品易於高。昔以一官治者。今折爲四五。昔以一吏主者。今增爲六七。得毋於循名核實之道。猶多未盡者乎。夫三省長官。不預朝政。六曹不釐本務。給舍不領本職。以及諸使弗親州事。都督徒擁虛銜。凡此者。皆官冗也。官不治其事。則見爲冗也。釐正之法。使官各治其事。事各歸其官。一轉移間而已足。而裁之併之增之。則仍求名而不求實之過也。蓋有所裁必有所併。併之不得。必有所增。所能裁者官也。所不能裁者事也。事不裁而官裁。則併其事于他官。他官又不能兼顧也。則別增一官以治其事。於是有裁官之名。而得增官之實。久之而所增者不能去。所裁者又因事而漸復其初。于是本欲裁官。反以增官。官多而責輕。而事愈以不治。則何如率由舊章之爲愈也。且官亦不必其多之爲害也。官多而事且不治。官少而事多。則愈益不治。誠使官擧其職。則天下未嘗虛設之官。待後人之裁併者也。官無虛設。而事變日增。則官且不得不增。又何裁併之可議也。總之裁官併官增官者名也。治事者實也。制治者宜務其實。無務其名。制作紛紛。小人乘之以取富貴。此元豐政治之事一倡。察京繼之。王黼又繼之。迭相乘除。變亂祖制。誠何救于南渡之禍耶。嗟夫。元豐改制。非無小效。識者猶病其不能循名核實。而徒事紛紛。則夫議裁議併議增。貿然不察事之始終。而徒欲變立名目以了事者。吾又不知其禍之所終極也。

東京電報

●**滿洲博覽會之開辦**　日前東京大坂京都名古屋神戶等諸埠紳商會議開設一大博覽會於奉天府以推廣農工商務刻已定議於西五月一日開辦其開會之數以三個月爲期而以上各紳商均在其預備中云（西二月十四日到）

倫敦電報

●美國議會不認追加豫算案　此次美國議會豫算委員均不承認陸軍卿他夫多君所提出之追加豫算案據他夫多君所言云美國政府非有保護在中國美國民之要事即無增派軍隊之意云云（西二月十三日發）

中外要聞

●俄使聯絡肅邸　俄國駐京璞公使夙與在京蒙古王公交好者甚多日前璞公使拜謁喀喇沁王聞該館可靠消息係請喀喇沁王代作介紹交結肅親王借此爲由以便運動蒙古之事

●俄使提欵　昨聞俄公使向道勝銀行提洋銀十二萬圓運往庫倫銀行接濟又聞此款係送往新疆別有用處

●擬設鹽鹼公司　聞商部堂憲會議在張家口達於庫倫設立墟鹼公司以防外人勾串私運等弊俟一切章程籌妥即行開辦又聞此擧擬聘洋員收掌俟商於赫稅司再爲辦理

●電致東撫　昨三點二十分鐘外部發電於山東巡撫謂德國在該省要求事無大小均請貴撫當日電達本部以便速於籌議等語

●干涉路政之拒絕　英國譯員帶同福公司商人至外部要求山西鐵路並有中國利益表一册請堂憲閱看當由外部大臣回覆言山西全省鐵路均歸中國自辦以後貴國不必再提此事云云是以英譯員悵悵而去

●索還威海衛之信不確　聞外部大臣以中國海軍未有眉目索還威海衛之議尚無一定成見各報傳說均屬意想之詞

●俄使照會外部　外部日前接駐京俄使照會內稱本政府另簡大使來京與中國會議要事至於貴國接待預備禮節迅希貴部前期照覆以便本大臣電達政府云云

●又有保擧書手之條陳　聞日前有侍御呈遞封奏一件探悉略云吏兵工等部自裁撤書手以來司員親理案件迄今日久未見起色並有目不識丁之員應行各部院片付文移公件時有文理不通另行駁回等情其原設書吏二百餘年所辦公件未常有貽誤之事應請飭下各部堂官妥擬有簡易之處酌量裁併如有繁雜緊要之部不得率行裁併以免貽誤公事云云

●清丈田畝　政府議准各省凡有册漲田地責令業戶將該處隨時取具里鄰甘結赴縣呈報以憑清丈升除如無册漲之地亦令取結存案統于奏銷案內分晰具報至居五年清丈之期仍照定例飭委員按畝確勘有升除不確之處即將承辦各官奏參云云

●改廟宇爲學堂　聞各大臣會議京外各處創設學堂者日見其多所擬菴觀寺院各等廟宇可酌量改設學堂以便廣興學務嗣經袁宮保面奏凡有勅建　剎某寺禪林者概免捐辦其餘募化之寺院仍照舊章捐辦已奉　旨允准云云

●蒙古謄員　聞政府諭飭理藩院堂官速揀選熟悉滿蒙文職四員赴蒙古隨同肅邸辦理事件所有該員考語文件先行赴蒙矣

●工巡局示諭　聞外城工巡衞生局日昨出示曉諭前經查悉京師各地面良莠不齊擬將各妓一律上捐劃定地段原設有四十處所有劃出各地段准其報明開設倘有私行開門當將房間封閉入官娼傢等一律嚴刑重辦云云

●勘定省界　政府議擬從來兩省接壤之地其界多有不清間有一省之內各州縣地界亦有不清者每遇命盜等案互相推諉礦產墟茶等互相爭競甚非息事寧民之意着各督撫共矢公心勿存私見詳細清釐如與鄰省地界有不清者則兩省各委實在賢員公同勘定得以遵據永無推諉之處於地方大有裨益矣

雜報

●戶部清查田漕　戶部覆准江南江蘇所屬地畝悉爲漕田近水泥灘沙地爲蘆洲均有册漲或漲墾不報升科或册荒不爲請豁或新漲已成漕田仍報升蘆課或蘆洲久成熟地並不轉則升科均履畝清丈如原係報升蘆課已經開墾成熟者令隨本處漕田則例轉科其接連漕田之新漲勘明實係漕田照漕田報升不得捏稱蘆地其實在册闕者即爲豁除云云

●勸農改策　政府王大臣議飭各省州縣于鄉民之中擇熟諳農務素行勤儉爲閭閻信服者每一州縣設立數名董率勸戒地方官考績之法寬以歲月庶久道化成而無欲速不達之弊如勸戒有方境內地闢民勤穀豐物阜積貯如茨如梁該督撫于三年之後據實提報官則交部議敘老農量加獎賞倘有教道無方强勒滋擾以及希圖獎賞揑辭妄報者指名參奏云云

●北地土藥大消　本埠土藥烟膏等局向年概用黑林子團林子之邊土味香質美價高惟省近年邊土來埠漸少半用雲南梁州等處之產質劣價廉仍不能暢消實因北地哈爾濱埠岸商買輻輳人民繁稠而土藥一宗較常年暢消數百倍先年該處每年僅可消售一兩箱之多近來每年消售八百餘箱且不惜重價聞客冬該處土藥每兩市銀圓壹元二角較本埠土價尚昂因而邊外等土便向該處消售多不來埠云

●賊肆鳴槍追之不及　日前巡勇查夜軍憲發給槍彈皆以紙完封無故不准啓封射彈前宵有一勇同一憲兵沿河岸巡查見有二人涉冰南來未提燈籠迨近岸盤詰之詎二人突向巡勇鳴二槍巡勇駭而急閃幸未射中迨巡勇啓出彈射鳴賊已遁遠夜色昏茫不辨賊之所向故近夜巡勇梭巡所用槍彈均不封以備遇賊捷便云

●募集義捐　去歲日本東北三縣之荒災爲其國家近來之一大慘事也其困狀不亞於天保年間之大饑饉各官廳及地方志士雖夙夜謀所以救濟之道無如窮迫之情日甚一日不但地方自治機關因而停止國民中時教育因而沮滯已也而覩此數十萬之窮民拾木皮掘草根僅得延一綫之命今也時際嚴寒饑寒交迫無自求衣食之道父母妻子流離東西變爲乞丐餓莩滿路慘劇殊不堪設想矣於是內地之東北三縣舊藩主貴衆兩院議員起而建立東北三縣救恤會在京各新聞通信社均贊成是擧募集義捐以期惠我窮黎本社自知涓埃之力何能有濟然既聞其慘狀自覺情不能已不得不遙爲聲援以救燃眉之急伏乞中外熱心君子諒本社之微意投以適當之義資其募集規則如左

一義捐金額每人須在一角以上
一收納以西歷二月二十八日爲止
一義捐金逕交本社
一期滿之後即將所收者送交東北三縣救恤會託其分賑
一助捐人姓名本社揭載廣告欄並代給收條

明治三十九年二月七日　滿洲日報社

NEWCHWANG, THURSDAY, FEB. 15, 1906.

THE HAND OF DIVINE PROVIDENCE (PART XXX).

How rich is the imaginative faculty of our esteemed Seoul contemporary, "The Korea Daily News," how liberally he draws on its inexhaustible supply, and how often his airy kites, flown high up into the unreal realm, have got badly entangled in one another's tail, may be easily found by running over his choice, spicy pen-products retailed with a nice eye to rushing custom, by some enterprising agents he has in North China. Turning to the issue of our Chefoo contemporary the "Chefoo Daily News" on Feb. 3rd., we notice the following characteristic bit of quotation from his paper issued on January 22nd. last. "In view of the critical(?) position in which the Government of Japan is at present placed, the delay of Marquis Ito in coming to Korea to take up the duties and privileges of Resident-General would look suspicious were it not for the fact that a rumour of considerable plausibility assigns other reasons for the way in which things are hanging fire. How the idea originated we cannot say (?), but it is certain that many of the Koreans hold the belief that the definition of the responsibility and powers of the Resident-Gen., as recently published in Japan, *do not meet with the approval of other Powers*." Any one will see that, in this world of conflicting interests, not to say of peace-loving war lords, the changed regime in Korea cannot "meet such ready approval as has been signified by the United States, Great Britain, or Russia the consent of which last Power had to be exacted at the court of arms. However what cogent reasons could other obdurate Powers offer, allowing that there are really some such intermeddlers as many knowing "Koreans believe," in trying to force Japan's hand to retrace the steps she has already taken in Korean affairs, except such as will consign them with as scanty ceremony into the same unenviable position of those "twelve Imperial Envoys"? Were Japan to heed a weird call of half from such quarters, the late bloody and costly War would have been indeed waged to as little purpose as its preceding one 10 years before. One bitter expensive lesson has sufficed for Japan. She will not play the biggest fool once more, not for the mere sake of obliging the all too ambitious Seoul Editor, last of all. It would be rather unreasonable on his part to expect Marquis Ito to pack up with the same commendable expedition he himself is reported to have displayed at Chefoo last fall, and to speed off for the Korean capital with as great celerity. As a matter of fact, the Japanese official personnel in Korea have been, in the more important features, completed. The Residency-General was formally opened on the 1st. inst., exactly as wired to the Chefoo contemporary from Seoul, by Gen. Baron Hasegawa acting for the Resident-General. Things do seem far from "hanging fire," with the official machinery, to all intents and purposes, started in motion in fairly good working order. What makes good old Marquis tarry so long about Tokyo?

The latest Tokyo wire states that the business circles of Tokyo, Osaka, Kyoto, Nagoya and elsewhere have decided at a meeting of their representatives to hold the contemplated Manchurian Exposition, at Mukden for 3 months opening on May 1st. next, adding that the preliminary preparations are underway.

Complementing the overbrief reference to Gen. Nogi in our yesterday's issue, the veteran warrior is reported to be declining most invitations to public functions and keeping to his simple modest home busy, all day and at times till late at night, writing as requested the intended inscriptions on the tomb-stones for the brave dead who once served under him. Great numbers of bereaved kinsmen of the killed are said to be flocking from all parts of the country to ask him for the coveted last honour to the resting-places of their beloved lost.

The buoyant silver represented in war notes and their new substitutes has risen another ½-sen, coming up to 99½-sen. Save for a slight decline in the Shanghai quotations, a general advance is noticeable everywhere.

EXCHANGE QUOTATIONS.—(Feb. 14, 1906).

JAPAN	Bank T.T.	99½
	" Dem'd	99¾
	P'ate 15 d/s.	99⅜
SHANGHAI	Bank T.T.	71
	" Dem'd	71¼
	P'ate 15 d/s.	72¼
TIENTSIN	Bank T.T.	102½
	" Dem'd	102¼
	P'ate 10d/s.	101¼
LONDON	Bank T.T.	2/- 5/16
	" De'd	2/- 3/8
	Cr. 4 m/s.	2/- 7/8
AMERICA	Bank T.T.	49¼
	" Dem'd	49½
	Cr. 4 m/s.	50¾
Bar silver		30⅝

The "M. D. R." Relief Subscriptions, (No. 2.) $202.00
Mr. C. C. Clarke - - - - 50.00
The same, Gentleman - - - - 10.00
262.00

豫報
北の風
昨日の氣温
昨日の氣温 最高温度二十四度一 最低温度零下廿度四
昨年との比 低九度九 低一度八

營口旅館料理店案内 いろは順

旅館 第一 營口ホテル 元神廟街九十六號

旅館 第二 營口ホテル 河岸通り

料理 第三樓 元神廟街三十二號 店主 粕屋忠兵衛

料理 入船亭 永世街百八十三號 谷初次郎

旅館 日營ホテル 河岸通り 店主 井上源吉

料理 東京 永世街八十六號 店主 村上京四郎

旅館 東茂旅館 西北街百七十三號 正金銀行西三程

料理 沖の島 永世街百六十五號 店主 中川彌三郎

料理 吉野亭 永世街八十六號 店主 坪田正好

旅館 竹村館 永世街二十二號(電話五一) 店主 麻田久二

旅館 大和館 永世街十一號 店主 前田九一郎

料理 滿洲樓 南永世街第千號 店主 直塚勝一

料理 萬梅 豊濟門街第百〇四號 店主 田島徳助

御料理 まんなをし 永世街字二本町元吉田屋跡 二百五十九号 店主 和田常松

料理旅館 醉花園 澁谷旅館 永世街百二十七號 店主 澁田留吉

旅館料理 金城ホテル 永世街百六十六號 第二金城ホテル 永世街百六十六號 店主 齋藤富次郎

旅館 東雲旅館 永世街七號 店主 谷口今朝太郎

料理 喜樂亭 營口元神廟街

營口軍政署 御用旅館 東 主任 谷口今朝太郎

さるそば 第一更科 營口元神廟街 さるそば 第二更科 永世街鶴の湯角

御料理 叮嚀專一 柳亭 豊濟門街二三 店主 玉岡益人

御料理 並ニ温泉 一力 營口永世街 店主 堀万助

和洋料理 松月亭 本店 營口元神廟街一四三号

和洋料理 御旅館 滿洲ホテル 支店 遼陽西街西門一一七号

遼陽旅館料理屋案内

旅館料理業 日營ホテル支店 主任 井上源吉

御料理會席 菊水館 主任 朝枝園捷

旅館西洋料理 遼陽館 主任 永瀬宇吉

旅館料理業 公陽館 主任 宮川秀基

御料理會席 末廣屋 主任 山根初之亟

御料理 凱旋亭 色々應御洋文 主任 古谷庄太郎

旅館御料理 遼塔ホテル 主任 木村常吉

遼陽兵站司令部指定ホテル 遼陽倶樂部 營口東雲館支店 主任 谷口今朝太郎

會席御料理 玉家 主任 西野治三郎

御料理會席 來々亭 主任 石田清

御旅館 豊陽館 上海(電話一〇六番) 日本郵船會社荷客取扱 歐米瀛船乘船取扱 館主 米田藤吉

爲替相場(二月十三日)
上海は百圓に付六十七両二錢五分
天津向は百圓に付一百〇八五圓五十錢
芝罘は天津と同直段

日本品最近物價表 加藤洋行調査
樽物類
菊正宗 三斗九舛入 銀二十圓
麒麟正宗 四斗四舛入 同十七圓
菊正宗 瓶詰四打 同十五圓
鮪 ヲキツラ 四打入 同十三圓
辛子漬 五打 同十四圓五十錢
フキ 四打 同九圓五十錢
同八圓
同十四圓
煉ミルク 同十八圓
石炭(飯塚工程局)
一上等塊炭 一噸ニ付 銀十八圓
同十七圓五十錢

◎フレノロジー
頭脳を觀察して身の上はんだんをなす
營口豊濟門街廿三號 李俊氏宅の西半町 利生堂

撫順炭大販賣
多少に不拘御用命被仰付度願上候
金城館販賣部

特別室落成
營口金城ホテル 旅館部

藝妓仲居 新來 金城館料理部

奉天小西門外 會席御料理 高等御旅館 金城館

弊店儀雜貨專業之處今般業務擴張の上日本は勿論滿洲に支店を設け併て鮮魚の御小賣充分勉强の上御用達可申候間倍舊の御用命被仰付度奉願上候 敬具

營口南永世街百廿七號 森屋洋行
大連大山通り二丁目 仝支店
遼陽西門外 代理店 林洋行
奉天小西門外(電話十六番) 代理店 米田洋行

雜貨 醬油 味噌 清酒
營口西北街 阪神組

諸鐵工製作
鑛山船舶機械鐵工 輕便鐵道附屬鐵工 土木建築用鐵材料 其外鑄物諸般
營口ブツシ綏定商會門東街 川喜鐵工場

御旅館 天津 芙蓉館
駐屯軍御用 並 西洋料理
(電話四十一番)

M. Iizuka,
CONTRACTOR,
ARCHITECT AND CIVIL EGINNEER.

Plans and specifications made to order.

ESTIMATES SUBMITTED.
MODERATE RATES.
No. 151 Yuwansinmiao
Ying Kow

御料理 滿月 平野町一八二(電話一六二)
御料理 滿月支店 平野町(元都樓跡)
今般内地ごり撰り抜きの別嬪數名呼寄候に付不相變御引立の程希上候 店主 青木勝惠

高等旅館 彌生館 營口永世街 館主 宮下兵七郎(電四二)

和洋 會席 御料理
一弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に造附且又會費等は特に割引大勉强仕候
二奉天支店も本店同樣に大勉强仕候間御光來被成下度候
營口永世街二本町 日本館本店(電話百三十番)
奉天小西門外大十字街北入橋町 日本館支店(電話十九番)
各位樣

旅館 富喜樓
室内は極清潔防寒之設備あり鐵嶺驛へ滊車到着毎に日本人の案内者出張致し居候
鐵嶺城東門外南へ一丁余 南大街 樓主敬白

藝妓仲居 新來御披露
此度新たに内地より藝妓仲居十數名を連れ參り候間御光來の上御評判の程願上候 草々
營口 高砂ホテル 高砂(電話一四五)

發賣 料木 標子 木板
清國營口二本町二五五號 塩川商會
主任 鹽川峰吉(電話一三六番)
遼陽小西門内 鹽川商會

外に用材北海道産松大角(自廿五尺至三十尺)一万立方尺餘
電柱用材杉丸太長(自二十尺至三十尺)八千本 ● 建築
右之品多少に不拘特別安價を以て差上候條御入用の御方は御來臨被成下度候也

○上等石炭 一噸に付 銀十六圓
○上等日本米 一石に付 銀二十圓
○板材木 ○木炭
○亞鉛板 ○洋釘
○干搗魚 ○石灰
御小賣致候間御用の御方は御通知次第直に持參可仕候也
喜久洋行
永世街八十號(電話百五十二番)

大連 大東洋ホテル
大連鐵道停車場附近民政署前兒玉町

MANCHURIA DAILY REPORT.
Subscription 4 cts. a copy
80 cts. per month.
$2.30 per 3 months.

本紙定價
一枚ニ付 銀四仙
一ヶ月前金 銀八十仙
半ヶ年前金 四弗八十仙
一ヶ年前金 銀九弗六十仙